

祭りで盛り上げる 地域の活力



田上 富久
長崎市長(長崎県)



岡崎 誠也
高知市長(高知県)



川島 信也
長浜市長(滋賀県)



山崎 孝明
江東区長(東京都)

司会・コーディネーター

細川珠生

政治ジャーナリスト

日本各地で催される祭りは、生活に根付いた地域に欠かせない伝統行事として、長い歴史の中で受け継がれてきたものです。地域文化や伝統の継承、地域の連帯感の醸成、交流人口の増加による経済効果など、さまざまな効果があります。

今号の座談会では、祭りによる地域振興を意欲的に進めている山崎孝明・江東区長、川島信也・長浜市長、岡崎誠也・高知市長、田上富久・長崎市長にお集まりいただき、祭りの概要や効果、現在、実施している取り組みなどについて、幅広くお話しいただきました。(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

新住民も
伝統的な祭りを
楽しみたいという
潜在的な
ニーズがあります。



山崎 孝明
江東区長(東京都)

各地で盛大に繰り広げられる祭り

細川氏 祭りをはじめ、年中行事、郷土料理、地場産業など、地域の風土や歴史の中ではくままれてきた文化は、貴重な資源です。とりわけ、地域住民が一体となって楽しむ祭りは、まさに活気や活力を与える上で、不可欠なものだといえるでしょう。

今回は、全国的に知名度がある祭りを有し、積極的にその祭りを地域振興に生かしている都市の首長にお集まりいただきました。それでは、まず各都市の祭りの概要や歴史などについて、お話しいただきたいと思えます。

山崎・江東区長 江東区で催される祭りの中で

ある鎮西大社諏訪神社の祭礼行事で、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。「龍踊」「太鼓山」など、ポルトガルやオランダ、中国などの影響を色濃く受けた奉納踊りを町会ごとに踊ります。

本格的な祭りは10月7日から9日までの3日間ですが、関連行事まで含めると、約4カ月も前の6月1日から始まります。

長崎市には、祭りを徹底的に楽しもうとする熱心な市民が多く、この「長崎くんち」においても、多くの市民が6月から本番に備えて、仕事や学校帰りに、毎日のように練習に励みます。そのような市民の気質が祭りを一層盛り上げていっているのです。

祭りを守り継承するには

細川 祭りとは、連続と地域の中で培われてきた地域文化です。これからも、しっかりと継承していかなければならないものだと思いますが、人口減少はもとより、価値観が多様化した現在では、その維持や継承も難しいところがあるのではないですか。

川島 やはり、歴史のある祭りですから、市民の間にはしっかりと伝統を守っていこうといった意識は強いですね。ただ、近年は、おっしゃるとおり少子高齢化が進み、なかなか難しい事情も出ています。山組と呼ばれる団体が、曳山ごとに担い手を組織化していますが、高齢化が著しい山組では、もはや自分たちの力だけでは祭りを担えなくなっています。やむを得ず、地域の大学や自衛隊に引き手を依頼するケースも出てきています。

田上 長崎市でも同じ問題があります。「長崎

も盛大なものは、毎年8月中旬に行われる福岡八幡宮の例祭「深川八幡祭り」です。日枝神社の山王祭、神田明神の神田祭と並んで江戸三大祭りの一つに数えられています。

一番の見どころは、3年に1度の本祭りの際に行われる連合渡御です。町内会の54基のみこしが町に繰り出し、約8kmのコースを練り歩きます。担ぎ手だけで約2万人、観衆を合わせると約50万人もの人出でにぎわいます。

連合渡御の際、沿道の観衆が担ぎ手に清めの水を勢いよく掛けることから、別名「水掛け祭り」とも呼ばれています。担ぎ手と観衆が一体となって盛り上がる祭りとして、江東区の大事な地域資源となっています。

川島・長浜市長 長浜市では、長浜八幡宮の春の祭礼である「長浜曳山まつり」が毎年4月9日から17日にかけて開催されます。祭りの起源は、羽柴(豊臣)秀吉が長浜城主であった400年以上も前にさかのぼります。秀吉に男子が誕生し、その祝いとして町人に砂金を振る舞ったところ、町人はこれを元に曳山を建造し、八幡宮の祭礼に引き回したのが始まりといわれています。

重要文化財に指定されている見送幕をはじめとして、歴代の名工が装飾した豪華絢爛な曳山は「動く美術館」とも称され、京都の祇園祭、飛騨・高山の高山祭と並び、日本三大山車祭りに数えられています。

祭りの期間中には、さまざまな関連行事が行われますが、目玉は江戸時代中頃から続く子ども歌舞伎です。5歳から12歳の男の子たちが曳山を舞台に、大人顔負けに熱演するさまは、多くの観衆を魅了します。

くんち」でも町内ごとに参加者を集めるのですが、昔ながらの区域である中心市街地の町会に新たにマンションやオフィスビルなどが建設されていくことによって、これまで祭りを支えてきた市民が少なくなっているという事情もあります。

山崎 江東区では不思議とそのような問題はありません。新しく江東区の住民になった人たちも含めて、多くの住民が担ぎ手として祭りに参加してくれています。むしろ、担ぎ手が多く、担ぎ手の着る半てんの数を制限せざるを得ないほど人気があります。新しい住民も伝統的な祭りを楽しみたいという潜在的なニーズがあるのだと思えます。

岡崎 「よさこい祭り」は伝統を守るとい

祭りは
コミュニティの
形成に不可欠。
その効用を
住民と共有
したいですね。



川島 信也
長浜市長(滋賀県)

岡崎・高知市長 高知市でもさまざまな祭りが行われていますが、最も知名度がある祭りは、8月9日から12日にかけて行われる「よさこい祭り」です。始まったのは戦後の昭和29年のことで、商店街の活性化と市の復興が目的でした。第1回当時の踊り子の数は、約750人とされています。それから半世紀以上経過した現在は、約200チーム、約2万人もの踊り子が全国から参加し、期間中には、全国各地から120万人を超える観光客が訪れるまでに発展しています。

この祭りの特徴は、何といっても、形式ばらない自由なスタイルにあると思います。チームごとに衣装にはさまざまな工夫が施され、曲もアレンジが自由、鳴子を持ってさえすれば、踊りのスタイルも問いません。この気軽さや自由さが受け入れられて、高知市はもとより、全国へ浸透しているのではないかと感じます。



田上・長崎市長 長崎市には、近年スタートした祭りも含めて多くの祭りがあります。その中で、最も大きな祭りといえ、370年以上の歴史がある「長崎くんち」でしょう。これは、長崎市民の氏神で

りも、新しいスタイルをつくり上げていく、進化させていくところに特徴があります。チーム編成も、年ごとに募集しており、毎年、大勢の市民が参加しています。

田上 「長崎くんち」も長い歴史がある祭りですが、同じような特徴があります。町会ごとに出し物を行う体制は維持されていますが、あまり伝統に固執せず、時代にに応じて出し物を変えたりなど、変化を遂げてきた「風流の祭り」ということがいえます。

細川 とところで、子々孫々まで祭りを継承していくためには、次世代を担う子どもたちの参加が重要だと思いますが、いかがでしょうか。

山崎 「深川八幡祭り」は、本祭りの前年に子どもたちによる連合渡御「子供神輿連合渡御」が行われます。次世代を担う子どもたちを主役に、祭りを体験してもらいたいと、平成13年から3年に1度行っているものです。子どもたちにとっては、地域の方々とも触れ合う大切な機会となっています。

田上 子どもの参加は、将来の後継者の育成といった意味でも重要ですが、教育の点でも大きな効果があります。「長崎くんち」も子どもの出演が多い祭りですが、祭りの準備期間も含めて、子どもたちはいろいろな規律を先輩から教わったり、自分の役割を与えられることで責任感を身に付けていきます。6月の時点ではまだ頼りなさげな子どもも、本番の10月になると、その様子や表情もすっかりしたものへと変化していきます。祭りならではの教育効果だと思えます。

岡崎 同感です。「よさこい祭り」は、中学生・



細川珠生(政治ジャーナリスト)

通じて、新住民も地域に溶け込めるし、住民同士の融和も促進されます。祭りならではの効用について、見直されるべきでしょうね。

田上 近年、長崎市は、7つの町村と合併しました。地域には小さな祭りも含めて、運動会やイベントなど、市民同士が顔を合わせる場が種々ありますが、新市としての一体感を醸成するためにも、このような市民同士が触れ合う場を大切にしたいと思います。

地域に愛着を持つたり、自分も市民の一人であるとの意識を持つためには、市民同士がコミュニケーションを取る機会が不可欠です。その意味では、祭りとは、その期間だけの集いではなく、普段の市民生活にも大きな効用を及ぼすものだと思えます。

岡崎 日本中、どの地域でも夏祭りが行われていますが、本来、夏祭りは神社などの氏子を中心に行われるものです。しかし、今やそんな伝統的な地域の力が弱体化しているため、祭り自体も活気が失われる傾向があります。

皆さんがおっしゃるとおり、祭りがコミュニティの維持の上で果たす役割はことのほか大きいと思います。高知市内の小学校などではPTAなどとの協力の下、学校内で、地域

の名前が付いた祭りを開催するなど、地域の祭りや行事が身近で大切なものであることを再認識しています。

行政はバックアップに努めるべき

細川 最後に、行政として、地域の祭りをどのように発展させていくべきか、そのために、どんな施策を行うべきかについて、一言ずつお願いします。

田上 行政としてやるべきことはあくまでもバックアップでしょう。先ほど申し上げたように、祭りを観光資源として位置付けることで、その魅力が損なわれないようバランスを見ながら、PRなどもしていきたいと思えます。

山崎 祭りの運営などは、住民が自主的に行いますから、行政ができることといえば、道路の使用における規制の緩和などですね。

江東区では多くの観衆が祭りを楽しめる環境をつくろうと、「深川八幡祭り」では客席を設けることを検討していますが、残念ながら、現在は、関係各所の許可が得られていません。今後も、区長として粘り強く働き掛け、許可を得られる努力をしていきたいと思えます。

岡崎 道路の有効活用はぜひ、行政としても取り組みたい点の一つです。これまで、道路とは人や自動車が往来するものとの考えがありました。近年は「地域住民が楽しむ公共的な場所でもある」という考え方が国土交通省を中心に浸透してきています。まだまだ、国の規制が多い分野ですが、今後

は緩和されるように努めていきたいですね。
川島 長浜市では平成9年から、毎年10月第1週の土日に、商店街で「長浜芸術版楽市楽座（アートインナガハマ）」というイベントを行っています。これは、秀吉公が長浜のまちをつくるために行った楽市楽座を芸術の視点から再現し、芸術の似合うまちをつくろうと市民が立ち上がって行っているイベントです。全国各地から芸術家が約500人集まり、自らの作品の展示即売会を行ったり、パフォーマンスを行います。行政としてこのような意欲的な地域イベントも応援し、力を合わせて、

地域の活性化に結び付けたいと思えます。



細川 現在は、自分たちが住んでいる地域への愛着や地域住民としての連帯意識が希薄になっていくといわれますが、祭りは地域住民が一体となつて楽しむことで、そういった意識を取り戻し、さらに地域に活力を与えるものであることがあらためて分かりました。地域の個性である祭りを、住民と共に継承し、その素晴らしさをこれまでに以上に内外へ伝えてい

ただけたらと願っています。

(平成21年2月19日、全国都市会館にて実施)
本コーナーは隔月掲載となります。次回は7月号に掲載予定です。